

小諸市が目指す小中一貫教育

特集⑤

「対話と協働による学びの充実」に向けた取組み

図 学校教育課 再編整備係

子どもが主人公になる教育とは？

子どもたちが、学校で最も長い時間を過ごすのが「授業」の時間です。小諸市立東小学校では、毎年麻布教育ラボの村瀬公胤先生にご来校いただき、継続的に授業づくりや学校づくりに関するご指導をいただいています。今月号では、東小学校の取組みを紹介します。

東小学校の挑戦

『子どもたちが主人公となる教育』を目指した、東小学校の先生方の挑戦は、今年で13年目となります。継続的に取り組んでいる授業づくり・学校づくりのポイントは、左記のとおりです。



【学校づくり】

先生方同士が学び合い、専門性を高められる学校づくりへの挑戦



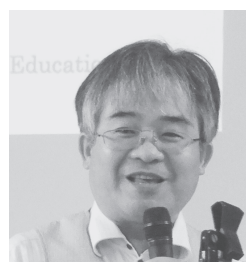
【授業づくり】

子ども同士が学び合い、その子らしく学べる授業づくりへの挑戦

日々の授業では、クラスの子もたちが前を向き、個々に課題に取り組む場面が多くみられます。そのような授業の中に、小グループになり互いの思いや考えを「聴く」活動を取り入れることで、協働しながら学び合う姿がみられるようになります。実際の授業場面でお話しします。

子どもが主体的に授業に参加できるように

例えば、算数の授業。問題を板書した先生が「はい、分かる人？」と問えば、挙手や指名によって答えられた正解のみがゴールとなります。では、その問題が「なぜ？」「どうしてその答えになるのか」を考えたいくなるような問いだったかどうかでしょう。子どもたちはおそらく「だってさあ」とか「こじやない？」と自分の言葉で語り始めます。もしその場が小グループであれば、正解不正解に関係なく、誰もが疑問や気付きを表現し、互いに学び合う活動が生まれます。どの子どもも主体的に授業に参加し始めるのです。



麻布教育ラボ所長
村瀬 公胤 先生

年間100校を超える全国の小中学校、幼稚園を訪問し、指導・助言にあたる。各校で授業クリニックを開催。

東小学校のある先生が「この問題、ひとりで考えるのとグループで考えるのとどちらがいい？」と尋ねました。「グループがいいです！」と子どもたちは笑顔で答えていました。子どもたちが主人公になり、子ども同士が学び合う授業を目指し、東小学校や野岸小学校などでは、令和7年度も村瀬公胤先生をお招きして職員研修会を開催する予定です。小諸市の先生方の授業づくりへの挑戦は、今年度も続きます。



■ 学校再編統合準備委員会(仮称)発足に向けて



小・中学校の適正規模・適正配置及び小諸市学校再編計画に基づき、芦原新校開校までの諸準備を円滑に行うための統合準備委員会(仮称)発足に向け、準備を進めています。まずは、4/30に4小中学校の校長先生やPTA正副会長の皆様にお集まりいただき、組織や構成員などについて、ご意見を伺いました。今後は5月末に発足する委員会を中心に検討を進めていきます。会議の議題や進捗状況は市民の皆様にも情報発信をしていきたいと考えています。